

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	ピラミッド	【目指す学校像】	・子供たちにとって学びがいのある学校 ・教職員にとって働きがいのある学校
			【目指す児童・生徒像】	・心身共に健康な児童 ・創造性に富んだ児童 ・人間として調和のとれた児童
			【目指す教師像】	・人権感覚が豊かな教師 ・創造性に富んだ教師 ・チームを意識した協調性のある教師 ・絶えず研究と修養に励む教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策		
確かな学力	基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、主体的に学びに向かう力を育成する。	自らの考えを広げ深める対話的な学びを工夫する。	体育の授業改善を中心に、学び合いの授業を実践する。	4 学び合い活動等の交流…80%以上の授業 3 学び合い活動等の交流…70%以上の授業 2 学び合い活動等の交流…60%以上の授業 1 学び合い活動等の交流…60%未満の授業	4	4 学習定着度75%以上…90%以上の児童 3 学習定着度75%以上…80%以上の児童 2 学習定着度75%以上…70%以上の児童 1 学習定着度75%以上…70%未満の児童	3	各学年が全教科で学び合いの活動を取り入れ、学習の定着を図っている。各年度のワークテストの結果を調べると、概ね8割以上の児童が学年相当の知識を身に付けていることが分かった。	*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	B	引き続き、各学年・全教科で学び合いの活動を取り入れ、学力の定着を図る。タブレット教材を利用して学び合い活動を実施する等、校内研究を通して更に充実させる。		
		児童向け資料「家庭学習の進め方」を活用し、家庭学習の充実を図る。	年3回の家庭学習強化月間を通して、家庭学習の習慣付けを図る。	4 強化月間中の家庭学習の提出率…90%以上の児童 3 強化月間中の家庭学習の提出率…80%以上の児童 2 強化月間中の家庭学習の提出率…70%以上の児童 1 強化月間中の家庭学習の提出率…70%未満の児童		4 学習定着度75%以上…90%以上の児童 3 学習定着度75%以上…80%以上の児童 2 学習定着度75%以上…70%以上の児童 1 学習定着度75%以上…70%未満の児童		概ね、宿題の提出率は8割程度であった。特に低学年は9割を超す提出率であった。家庭学習の提出率と、各評価テストの結果を比較したところ、提出率が100%の児童は、学習定着度も高い結果が見られた。			*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	低学年から宿題の提出を意識させること、その提出率を維持すること、家庭学習と学習定着度の関連性を研究し、児童、家庭に発信しながら学力の定着を図る。	
		児童にやさしい教室環境、学習環境、授業を工夫・改善する。	玉小スタンダードに基づき、教室環境や学習環境、授業の進め方を整える。	4 玉小スタンダードに基づいた指導…90%以上の教員 3 玉小スタンダードに基づいた指導…80%以上の教員 2 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員 1 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員		4 授業が分かりやすい…95%以上の児童 3 授業が分かりやすい…90%以上の児童 2 授業が分かりやすい…80%以上の児童 1 授業が分かりやすい…80%未満の児童		3			ハンドサインや「話すのは一人」などの授業規律を継続的に指導し、分りやすい授業を実施している。「学校アンケート(児童)」の学校の授業は分かりやすいか。では肯定的な評価が93.5%であった。	授業に参加できない児童に対して、どのように対話し声をかけるのかなど具体的な手立てが必要である。	B
豊かな心	道徳教育の充実・推進を図り、規範意識、社会参画意識を養い、自己有用感を育成する。	道徳授業地区公開講座を中心として組織的に道徳教育に取り組む。	道徳教育推進教師を中心に授業改善を進めより良く生きるための道徳性を養う。	4 考え、議論する道徳授業の実施…95%以上の教員 3 考え、議論する道徳授業の実施…90%以上の教員 2 考え、議論する道徳授業の実施…80%以上の教員 1 考え、議論する道徳授業の実施…80%未満の教員	2	4 社会通念上のいじめ…0件 3 社会通念上のいじめ…1件から5件 2 社会通念上のいじめ…6件から10件 1 社会通念上のいじめ…11件以上	3	低学年において「議論する道徳授業」の実施や課題がある。「いじめ総合対策」や「いじめ防止アンケート」を活用し、いじめの根絶に向けて、継続的かつ組織的に取り組む。	低学年において議論することは難しいと感じる。率直な感想を出し合うことで良いと思う。	B	道徳の別業を作成、活用し、学校行事や教科書の関連を図りながら道徳教育の充実を図る。		
		「玉川小のやくそく」を継続的に発信し続け、定着を図る。	全教員が共通理解を深め、生活・授業規律を徹底する。	4 玉小スタンダードに基づいた指導…90%以上の教員 3 玉小スタンダードに基づいた指導…80%以上の教員 2 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員 1 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員		4 安心して生活できている…95%以上の児童 3 安心して生活できている…90%以上の児童 2 安心して生活できている…80%以上の児童 1 安心して生活できている…80%未満の児童		2			全教員が生活・授業規律の徹底を図るために生活指導夕会で研修を含め共通理解の場を設けたことで、「学校アンケート(児童)」の「学校で暮らしていて安心して生活できていますか。」では肯定的な評価が88.3%であった。	*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	授業規律に関しては、全校で徹底した指導を図る。週に一回、学年主任が様子を見て、具体的な改善策を学年で相談していく。また、生活指導夕会での報告や研修を通して、全教員で共通理解し、実践していく。
		自己有用感を高めさせるために、特別活動の充実を図る。	学級会の流れを系統的に学ばせ、自主的、実践的に集団行動する態度を育成する。	4 学級会の実施回数…8回以上の実施 3 学級会の実施回数…7回以上の実施 2 学級会の実施回数…6回以上の実施 1 学級会の実施回数…6回未満の実施		4 楽しく学校生活を送っている…95%以上の児童 3 楽しく学校生活を送っている…90%以上の児童 2 楽しく学校生活を送っている…80%以上の児童 1 楽しく学校生活を送っている…80%未満の児童		2			感染症対策をしながらの学級会の実施になり、十分な意見交換できなかった場面があった。「学校アンケート(児童)」の「楽しく学校生活を送っていますか。」では肯定的な評価が88.3%であった。	*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	感染症対策を図りながら話し合いの活動を充実させるため、タブレットを活用した校内研究を実施する。
健やかな体	体育の授業改善とともに、日常的な運動習慣を定着させ、運動に親しむ資質や能力を育成する。	体力調査結果を検証・活用し、体育朝会を改善する。	体育朝会の年間指導計画を立て、ねらいを明確にして、系統立てて実施する。	4 体育朝会の実施…25回以上の実施 3 体育朝会の実施…20回以上の実施 2 体育朝会の実施…15回以上の実施 1 体育朝会の実施…15回未満の実施	3	4 遊んだり体を動かしたりしている…95%以上の児童 3 遊んだり体を動かしたりしている…90%以上の児童 2 遊んだり体を動かしたりしている…80%以上の児童 1 遊んだり体を動かしたりしている…80%未満の児童	2	体育朝会は年間の朝会計画に基づいて行っている。外敵に関しては日々継続し、「学校アンケート(児童)」の「学校で遊んだり体を動かしたりしていますか。」では肯定的な評価が85.1%であった。	運動経験や技能差が様々な児童がいる中で、学校体育だけでなく体力向上を実現することは難しい。外部機関や専門家との連携も必要である。	B	通常の体育の授業では、準備運動の中で元氣アップヨガの動きを取り入れ、系統性を意識して指導する。		
		生活指導部を中心に、安全に配慮した学校運営を行う。	危険察知能力を高めさせるために、計画的かつ系統的に安全に関する指導を行う。	4 安全に関する指導の実施回数…20回以上 3 安全に関する指導の実施回数…15回以上 2 安全に関する指導の実施回数…11回以上 1 安全に関する指導の実施回数…11回未満		4 安全や健康についての知識を生かす…95%以上の児童 3 安全や健康についての知識を生かす…90%以上の児童 2 安全や健康についての知識を生かす…80%以上の児童 1 安全や健康についての知識を生かす…80%未満の児童		2	危機管理マニュアルに関して、視覚的な資料を活用して指導し、「学校アンケート(児童)」の「学校で学んだ安全や健康についての知識を生活の中で生かしていますか。」では肯定的な評価が83.9%であった。		*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	危機管理マニュアル研修会を設け、教職員の学校生活上の安全や健康に関する知識の向上に努める。	
		自らの健康を適切に管理するとともに改善能力を培う。	元氣アップガイドブックの活用…9回以上 元氣アップガイドブックの活用…6回以上 元氣アップガイドブックの活用…3回以上 元氣アップガイドブックの活用…3回未満	4 元氣アップガイドブックの活用…9回以上 3 元氣アップガイドブックの活用…6回以上 2 元氣アップガイドブックの活用…3回以上 1 元氣アップガイドブックの活用…3回未満		4 食事や栄養についての知識を生かす…95%以上の児童 3 食事や栄養についての知識を生かす…90%以上の児童 2 食事や栄養についての知識を生かす…80%以上の児童 1 食事や栄養についての知識を生かす…80%未満の児童		1	学期初めにグッドモーニング60分に取り組んでいる。また学年単位で、食事や栄養についての課題に挑戦し、「学校アンケート(児童)」の「学校で学んだ食事や栄養についての知識を生活の中で生かしていますか。」では肯定的な評価が74.2%であった。		元氣アップガイドブックをより活用し、体力向上を図る必要がある。	C	体力向上旬間を設け、縄跳びや持久走に全校で取り組み、体力向上を図る。
輝く未来	日本の伝統文化理解と継承を図り、多様な文化の尊重と国際理解・協力の態度を育成する。	伝統文化に関する理解を深め、多様な文化を受け入れる態度を育てる。	外部人材等を活用した伝統文化に関する授業…全学年 外部人材等を活用した伝統文化の授業…五つの学年 外部人材等を活用した伝統文化の授業…四つの学年 外部人材等を活用した伝統文化の授業…三つの学年	4 自分や友達を大切にしている…95%以上の児童 3 自分や友達を大切にしている…90%以上の児童 2 自分や友達を大切にしている…80%以上の児童 1 自分や友達を大切にしている…80%未満の児童	1	4 伝統文化に関する活動は、園芸や音楽などの教科で触れている。「学校アンケート(児童)」の「自分や友達を大切にしているか。」では肯定的な評価が94.3%であった。	コロナ禍において外部人材の活用が難しい。そのような中で経験させることは難しいと感じる。	B	校内での活動は継続し、外部人材の活用においては、リモートビデオレコー等での実施計画を立て、状況に応じて使い分けていく。				
		心のバリアフリーを浸透させ、多様性を尊重する態度を育てる。	障害者理解を柱として、年間指導計画に沿って、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。	4 講話+体験+交流の実施…全学年 3 講話+体験+交流の実施…五つの学年 2 講話+体験+交流の実施…四つの学年 1 講話+体験+交流の実施…三つの学年		4 思いやり的心をもって行動している…95%以上の児童 3 思いやり的心をもって行動している…90%以上の児童 2 思いやり的心をもって行動している…80%以上の児童 1 思いやり的心をもって行動している…80%未満の児童	1		オリンピック・パラリンピックを題材とした活動や、総合の時間での体験活動を行った。「学校アンケート(児童)」の「思いやり的心をもって行動しているか。」では肯定的な評価が85.5%であった。	コロナ禍において外部人材の活用が難しい。そのような中で経験させることは難しいと感じる。	C	オリンピック・パラリンピック教育で培った精神を校内の活動の中で継承し、外部人材の活用においては、リモートビデオレコー等での実施計画を立て、状況に応じて使い分けていく。	
		小中連携した児童の育成を図る。	自身の成長や変化に気付くことができるようにキャリア・パスポートの活用を図る。	4 キャリア・パスポートの活用…7回以上 3 キャリア・パスポートの活用…6回以上 2 キャリア・パスポートの活用…5回以上 1 キャリア・パスポートの活用…5回未満		4 自分の将来について考える…95%以上の児童 3 自分の将来について考える…90%以上の児童 2 自分の将来について考える…80%以上の児童 1 自分の将来について考える…80%未満の児童	1		キャリア・パスポートへの記入は学期に1～2回の活用、計4回活用できた。「学校アンケート(児童)」の「自分の将来について考えることはありますか。」では肯定的な評価が81.4%であった。引き続き、活用を徹底していく。	*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	小中一貫の目、小・中教育を中心に連携を継続し、他校と学習指導、生活指導を共有する。キャリア・パスポートの継続の推進、各教科で、児童のキャリア教育を推進する。		